

横浜版 学習指導要領

国語科 編

横浜市教育委員会

第1章 国語科の目標と指導方針

1 国語科の目標

言語の教育としての立場を一層重視し、日常生活や社会生活に必要な国語の能力の基礎が身に付くようにしながら、次の“横浜の子ども”の育成を目指します。

- 言語意識をもち、学習の見通しを立て、選択した言語活動を通して言語能力を身に付けるとともに、自らの言語能力を高めようとする子どもを育てます。(知)
- 人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で思いを積極的に伝え合う子どもを育てます。(徳)
- 自他の生命の大切さを実感し、それらを理解したり表現したりするための語いを身に付ける子どもを育てます。(体)
- 日常生活や社会生活に必要な国語の能力の基礎を育成するとともに、思考力及び想像力をはぐくみ、豊かな言語感覚をもった子どもを育てます。(公)
- 伝統的な言語文化に親しみ、我が国の伝統文化を継承し、創造へとつなげていこうとする子どもを育てます。(開)

国語を適切に表現し正確に理解する能力や思考力や想像力及び言語感覚等は、生涯を通じて個人の自己形成にかかわるとともに、文化の継承や創造に寄与する役割を果たすものです。これらは、“横浜の子ども”の育成全般にかかわるものであり、「しっかり教え、しっかり引き出す指導」を通してその育成を目指すものです。

(1) 小学校国語科の目標

小学校の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、日常生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置き、目標を設定しました。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視しました。

○国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成

国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標です。「適切に表現」する能力と「正確に理解する能力」とは、連続的かつ同時的に機能するものであることから最初に位置付けました。

「国語を適切に表現」する能力とは、国語を適切に使う能力と国語を使って内容や事柄を適切に表現する能力との両面の内容を含んでいます。国語を「正確に理解する能力」とは、国語の使い方を正確に理解する能力と国語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力の両面を含んでいます。

第2章 重点的課題への国語科の担う役割

(1) 豊かな心の育成

○道徳教育の充実を図り、豊かな体験を通して子どもの内面に根ざした道徳性を育成します。

○人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養う活動を通して、道徳教育の推進の基盤、道徳的心情や道徳的判断力の基本を築きます。

(例) ・様々な人間関係の中で美しい言葉で心のこもった伝え合いを行うようにする。
・自分の感情を話したり、書いたりするときに、どのような言葉で表現するかを考えるようにする。

○我が国や横浜の伝統・文化を尊重し、よさや魅力を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する姿勢を育成します。

○創造と継承を繰り返しながら形成された伝統的な言語文化である、神話・伝承、短歌や俳句、古文・漢文等を取り上げ、親しませる活動を通して、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいこうとする心情を育成します。

(例) ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせをしたり、発表し合ったりする。
・短歌や俳句について、情景を思い浮かべ、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をできるようにする。

(2) 健康でたくましい体の育成

○自己の心や体の健康に関心を持ち、生活習慣や心身の成長の正しい知識を身に付けながら自律的に健康管理をしたり、運動やスポーツに親しんだり、体力向上を目指したりできるようにします。

○自分の心や体の状態を正しく理解したり、適切に相手に伝えたりするための豊富な語彙を身に付け、論理的に表現する力を育成します。

(例) ・科学的な読み物や新聞、雑誌など多様な情報を用いた読書活動を通して、幅広い分野に興味・関心を持ち、知識を得ることにより、豊富な語彙を獲得し、活用できるようにする。

○健康教育や食教育の充実を図り、健やかな体力づくりに自らが関心を持ち、健康や食生活等にかかわる能力を総合的に育成します。

○自分の健康や食生活を充実させるために、必要な情報を集め活用し、生活に生かす力を育成します。

(例) ・目的や意図に応じて本や文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えを形

第3章 国語科義務教育9年間に身に付ける力

「横浜版学習指導要領 国語科編」では、義務教育9年間の子どもの学びの連続性を図るために、義務教育9年間で身に付ける国語の能力を3領域・1事項の4つの系統表に表しました。また、学習指導要領では小学校低学年、中学年、高学年で示された指導事項を、横浜版では6学年でとらえ直しています。身に付ける国語の能力をより明確に位置付けるとともに、小学校と中学校の円滑な接続を目指し、内容ごとにその系統性を示しています。

【A 話すこと・聞くこと】

学 年	小学校第1学年及び第2学年			
「話すこと・聞くこと」の知識・技能	話題設定や取材	○学校生活や家庭での日常生活における身近なことの中から話題を設定する。 ○事柄の順序に沿って、話すために必要な事柄を思い出す。	○経験したこと、観察したことの中から、考えを出し合って話題を設定する。 ○事柄の順序や経験したことの順序などに沿って、話すために必要な事柄を集めて選ぶ。	○話し合いの場から、相手と話し合えるように、話題を設定する。 ○必要に応じて、本や文庫本、図表や絵、写真などを見て話し、要点をメモする。
	話すこと	○行動や経験の順序、作業や出来事の順序に沿って、話す事柄を具体化する。 ○丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。 ○姿勢や口形などに注意して、一音一音をはっきりとした発音で話す。	○説明や報告などを行う際に、順序に沿って、話す事柄を具体化する。 ○場面や状況によって、丁寧な言葉と普通の言葉を使い分けようとする。 ○安定した明瞭な発音で、場や相手に合わせ、声の大きさや速さに注意して話す。	○話の中心を位置付け、区別して話す。 ○話の中心とそれを支える部分とに区別して構構成する。 ○話の中心とそれを支える部分とに区別して構構成する。 ○話の中心とそれを支える部分とに区別して構構成する。
	聞くこと	○興味をもって、集中して最後まで話を聞く。	○大事なことを落とさないように、話の順序を考えながら整理して聞く。	○話の中心に気を付けて聞き、質問したり、感想や意見を述べたりすること。
「話すこと・聞くこと」の活用	話し合うこと	○互いの顔を見合いながら互いの話を聞き、話題に沿って話し合う。 ○ペアや小グループで話し合う。	○うなずくなど反応しながら互いの話を聞き、続けて話し合う。 ○小グループや学級全体で話し合う。	○互いの発言の共通点や相違点を確認しながら、司会や提案などの役割を知り、進行に沿って話し合う。
	言語活動例	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを読んで感想を述べたりすること。	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを読んで感想を述べたりすること。	ア 出来事の説明や調査の意見を述べたりすること。
		イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめること。	イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめること。	イ 学級全体で話し合ってまとめること。
ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。	ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。	ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話し、聞いたりすること。		
関心・意欲・態度				

系統表は、
A 話すこと・聞くこと
B 書くこと
C 読むこと
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
の3領域1事項で示されています。

小学校低学年・中学年・高学年で示された学習指導要領の指導事項を6学年でとらえ直し、その学年で身に付けるべき国語の能力を例示しました。

学習指導要領で示された指導事項を各領域の知識・技能ととらえています。また、言語活動例を各領域の知識・技能を活用する場面ととらえました。

学習指導要領では、言語活動例が内容に示されました。「横浜版学習指導要領 国語科編」では、横浜の子どもに経験させたい言語活動を具体的に例示しました。ここに例示された言語活動は、「第4章 単元別「補充的・基礎的・発展的指導内容、指導方法例」で取り上げ、それぞれ詳細に解説しています。

【取り上げた言語活動】
A 話すこと・聞くこと…小学校 20事例、中学校 11事例
B 書くこと …小学校 19事例、中学校 12事例
C 読むこと …小学校 22事例、中学校 20事例
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
ア 伝統的な言語文化 …領域の言語活動で取り扱います。
イ 言葉の特徴やきまり ウ 文字・漢字に関する事項…言葉あそびを例示します。
〔書写に関する事項〕 …事項ごとに詳細に解説しています。

「A 話すこと・聞くこと」


学 年		小学校第1学年及び第2学年		小学校第3学年及び第4学年	
「話すこと・聞くこと」の知識・技能	話題設定 や取材	○学校生活や家庭での日常生活における身近なことなどの中から話題を設定する。 ○事柄の順序に沿って、話すために必要な事柄を思い出す。	○経験したこと、観察したことなどの中から、考えを出し合って話題を設定する。 ○事柄の順序や経験したことの順序などに沿って、話すために必要な事柄を集めて選ぶ。	○興味や関心のあることから、相手や目的に合わせて話題を設定する。 ○必要に応じて、本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真を見るなどして調べ、要点をメモする。	○調べたいことや考えたいことなどの中から、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話題を設定する。 ○必要な事柄について方法を選択して調べ、メモを活用して内容を整理する。
	話すこと	○行動や経験の順序、作業や出来事の順序に沿って、話す事柄を具体化する。 ○丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。 ○姿勢や口形などに注意して、一音一音をはっきりとした発音で話す。	○説明や紹介などの順序に沿って、話す事柄を具体化する。 ○場面や状況によって、丁寧な言葉と普通の言葉を使い分けようとする。 ○安定した明瞭な発音で、場や相手に合わせ、声の大きさと速さに注意して話す。	○話の中心を位置付け、区切りを考えて話す。 ○相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選んだり敬体と常体との表現を使い分けたりして話す。 ○聞き手を見る視線、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。	○話の中心とそれを支える部分とに区別して構成し、理由や根拠、事例を挙げながら筋道立てて話す。 ○相手や目的に応じて敬語などの言葉遣いに注意して話す。 ○聞き手の反応を確かめながら、話の内容が伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話す。
	聞くこと	○興味をもって、集中して最後まで話を聞く。	○大事なことを落とさないように、話の順序を考えながら整理して聞く。	○話の中心に気を付けて聞き、質問したり、感想や意見を述べたりする。	○話の中心を聞き取り、自分の経験と結び付けたり自分の考えと比較したりして感想を述べる。
	話し合うこと	○互いの顔を見合いながら互いの話を聞き、話題に沿って話し合う。 ○ペアや小グループで話し合う。	○うなづくなど反応しながら互いの話を聞き、続けて話し合う。 ○小グループや学級全体で話し合う。	○互いの発言の共通点や相違点を確認しながら、司会や提案などの役割を知り、進行に沿って話し合う。	○互いの考えの根拠に目を向け、共通点や相違点を整理しながら、司会や提案などの役割を理解し、目的に応じた進行に沿って話し合う。
「話すこと・聞くこと」の活用	言語活動例	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。		ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。	
		○事物の説明 ○経験の報告		○出来事の説明 ○調査の報告 ○インタビュー	
		イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。		イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。	
		○問答・対話 ○話し合い		○会議 ○討論会 ○インタビュー	
		ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。		ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。	
		○あいさつ ○連絡		○ポスターセッション ○図や表などの説明	
		エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。 ○紹介			
関心・意欲・態度	進んで話したり聞いたりしようとする態度		工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度		

小学校第5学年及び第6学年		中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
○学校や家庭及び地域で経験したことや関心をもって考えたり調べたりしたことなどから、話題を設定する。 ○収集した知識や情報を比較、対照したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。	○日常生活の中で考えたことや伝えたいことなどの中から、意味や価値のある話題を設定する。 ○収集した知識や情報を関係づけながら、話題を練り直し、話題の目的や意図を一層明確にし、取り上げる事柄について考える。	○日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理する。	○社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理する。	○社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめる。
○目的や意図に応じて、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したりして、構成を工夫して話す。 ○日常よく使われる敬語について、適切な使い方を理解して使う。 ○声量や速度、抑揚や間の取り方などを工夫し、その場に応じた最も適切な表現をする。	○目的や意図に応じて、概説したり、結論付けを明確にしたり、引用や図解、定義付けをしたりして、構成を工夫して話す。 ○共通語と方言との違いを理解し、必要に応じて共通語で話す。 ○音声の使い方、語や文、表情、仕草など、多様な場や相手に応じた言葉遣いで話す。	○全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す。 ○話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す。	○異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す。 ○目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話す。	○語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。 ○場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使う。
○事実と感想、意見を聞き分けたり関連付けたりして話し手の目的や意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べる。	○話し手の目的や意図をとらえ、自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理する。	○必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	○話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。	○聞き取った内容や表現の仕方の評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする。
○互いの立場や意図をはっきりさせ、司会や提案などの役割を果たし、調整しながら計画的に話し合う。	○互いの立場や意図をはっきりさせ、司会や提案などの役割を理解し、建設的に話し合う。	○話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりと、自分の考えをまとめる。	○相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。	○話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合う。
ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。		ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。	ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
○資料提示をしての説明 ○資料提示をしての報告		○3分間スピーチ ○インタビュー	○フリップを用いたプレゼンテーション ○情報機器を用いたプレゼンテーション	○時間や場の条件に合わせたスピーチ ○ポスターセッション
イ 調べたことやまとめたことについて討論などを行うこと。		イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。	イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。	イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。
○協議 ○パネルディスカッション ○座談会		○グループディスカッション ○対話劇	○ディベート	○3つの立場によるパネルディスカッション ○面接シミュレーション
ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。				
○推薦				
適切に話したり聞いたりしようとする態度		考えをまとめようとする態度	考えを広げようとする態度	考えを深めようとする態度

「A話すこと・聞くこと」 小学校第1学年及び第2学年 「事物の説明」(言語活動例ア)

補充的指導内容・指導方法例 【話題設定や取材】 相手意識をもって話す事例を選ぶことが難しい場合	基礎的指導内容・指導方法例 (学習指導要領) イ 相手に応じて、話す事例を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 事項イー(ア)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	発展的指導内容・指導方法例 【話題設定や取材】 ○相手の立場や状況を自ら推測し、適切な内容や話し方を考える。 ○相手の興味・関心を高めることを意識し、説明する事例を選んだり、情報を集めたりする。 ・面白い、楽しい、きれいな、珍しいなど、相手を引き付ける要素を助言する。 【話すこと】 ○相手の反応を見ながら順序よく話す。 ・必要に応じて説明を付け加えるようにする。 ・タイミンングよく実物や絵、写真などを見せるようにする。 ○質問や呼びかけなど、語調を工夫して話す。 ・「～を知っていますか。」「これは何だと思いませんか。」「～など、問いかけを用いるようにする。 【聞くこと】 ○友達の説明を聞き、順序や内容のよさに気付く。 ・概要が始めに述べられているか、特徴や好きな理由などが伝わったかなど、聞く視点を与える。 ○友達の説明を聞くよさを感じられたかどうかを振り返る。 ・友達の説明から学んだ話の内容と話し方の両面から振り返り、感想を言うように促す。
<ul style="list-style-type: none"> 説明する相手や場、状況を明確に伝え、揭示しておく。 話の組立を示し、事物について何を話すのかをつかめるようにする。 説明する事例をよく観察し、様子を表す言葉を集め、その中から適切な言葉を選ぶようにする。 【話すこと】 分りやすい順序を理解し、話すことが難しい場合 <ul style="list-style-type: none"> 話す順序を明確にする。 ①□□について説明します。 ②□は、～ができます。 ③□は、～色で、～な形をしています。 ④□を使って～ができたら、楽しいと思います。 組立てメモやカードを作り、手元に置いて話すようにする。 【聞くこと】 大切なことを落とさずに聞き、理解するのが難しい場合 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用意し、聞いたことを①～④に沿って書き込むようにする。 	■具体的な話題・場面 <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなもの、だからもの、あったらいいなと思うものの説明 乗り物や動物について調べたことの説明 【話題設定や取材】 <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて説明する内容を考え、話す事例を集める。 説明する相手や場の状況、話す時間の目安などを明確にする。 説明するものの役割や構造など、落としてはいけない事例を出し合い、話す事例を集めるようにする。 説明するものについてすべてを話すのではなく、必要な事例を選ぶようにする。 【話すこと】 <ul style="list-style-type: none"> 話し方を理解し、基本の話形に沿って話の組立を考える。 分りやすい順序で話す。 始めに説明する事例の概要を話し、次に役割や構造などの特徴を詳しく述べるようにする。 好きな理由や調べた理由などを付け加えるよう助言する。 実物や絵、写真などを見せながら話すことと分りやすいことを伝える。 [あったらいいなと思うものを説明する例] ①わたしがあつたらいいなと思うものは○○です。→話の概要 ②△△や△△△△ができます。→役割 ③□□がついていて、○色です。形は△です。→構造 ④○○を使って、～ができたら楽しいと思います。→思ったこと、感じたこと ○丁寧な言葉遣いで話す。 【聞くこと】 <ul style="list-style-type: none"> 大事なことを落とさず、相手の思いに共感しながら聞く。 分りやすい順序や丁寧な言葉遣いで話すことができたらかかを振り返る。 	

中学校 第3学年 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 書写に関する事項 (2) ア

補充的指導内容・指導方法例	基礎的指導内容・指導方法例 (学習指導要領)	発展的指導内容・指導方法例						
<p>【身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書く】</p> <p>身の回りの多様な文字に気付くようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な文字のあり方に関心をもち、様々な学習場面や社会生活の中で目にする、様々な文字を集める。 <p>新聞・ポスター・パンフレット・手紙・CDのジャケット・教科書 など</p> <p>【効果的に文字を書く】</p> <p>書く目的や必要に応じて、適切な用具や書体などが選べるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書く目的を設定し、その必要に応じて、適切な用具や書体を選び、筆記具の特徴・紙質や文字の大きさや太さなどを選択する。 行の中心や行間を考え、余白や全体の調和を意識して書く。 	<p>ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。</p> <p>【身の回りの多様な文字に関心をもち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手書き文字だけでなく、活字やイラスト文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字や、それらの文字の使われ方などに関心をもち、 文字を手書きにすることの意義に改めて気付く。 文字文化に関する認識を改めて形成する。 <p>《場面に応じた、手書き文字と活字の使い分けを行う》</p> <p>手紙・年賀状・書き初め・のし袋・レポートなど様々な書く場面を設定し、それに合った使い分けを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な文字の使い手になるきっかけをもち。 身の回りにある文字を集め、生活の中での書く場面で使われる様々な形式を整理する。 <p>(読み手を元に分類した例)</p> <table border="1" data-bbox="746 680 863 1554"> <tr> <td>他者 (多数)</td> <td>[手書き] 看板・式次第 [活字] 新聞・本・議事録</td> </tr> <tr> <td>他者 (個人)</td> <td>[手書き] 手紙・はがき・のし袋・色紙 [活字] レポート・名刺</td> </tr> <tr> <td>自己</td> <td>[手書き] ノート・日記 [活字] ファイルラベル</td> </tr> </table> <p>【効果的に文字を書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2学年までの学習を踏まえて、文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書く。 小学校からこれまでに身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮して書く。 <p>書写の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 字形を正しく整える能力 速く書く能力 筆記具の選択について工夫する能力 配列などを整える能力 楷書や行書を使い分けられる能力 	他者 (多数)	[手書き] 看板・式次第 [活字] 新聞・本・議事録	他者 (個人)	[手書き] 手紙・はがき・のし袋・色紙 [活字] レポート・名刺	自己	[手書き] ノート・日記 [活字] ファイルラベル	<p>【身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術科書道への発展性も見通す。 様々な書作品を鑑賞し、気付いたこと、感じたことなどを発表し合う。 楷書又は行書の平易な古典を臨書する。(過去の優れた筆跡を見本として書く。) 楷書…九成宮醜泉銘 (初唐・欧陽詢) 行書…蘭亭序 (東晋・王羲之) 仮名…高野切第三種 (平安) 自分で選んだ言葉や詩文を題材に線質・書体・用具・紙面構成などを工夫して書く。 自分の名前の印を作る。
他者 (多数)	[手書き] 看板・式次第 [活字] 新聞・本・議事録							
他者 (個人)	[手書き] 手紙・はがき・のし袋・色紙 [活字] レポート・名刺							
自己	[手書き] ノート・日記 [活字] ファイルラベル							